

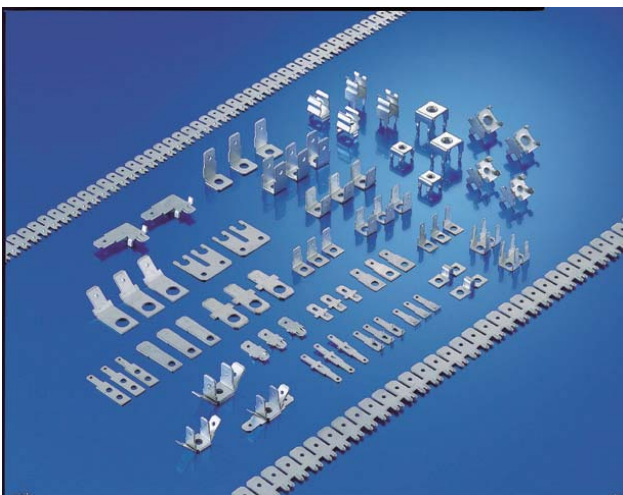
## 輸出加工区を活用した高付加価値製品の現地生産により、海外への販路開拓に成功した中小企業

東京都港区の協伸工業株式会社(従業員215名、資本金2億5,760万円)は、家庭用電気機器や自動車用電装品などの部品としてプリント基板等に組み込まれる入力端子として使われるタブ端子やテーピング端子等のプレス製品、樹脂成形品を主力製品とする部品メーカーである。日本国内に3工場を展開し、1995年にはベトナム工場を開設するとともに、シンガポールに販売拠点を設立している。

ベトナムへの進出の契機は、日本に700社ある取引先の海外進出である。ベトナム・タントアン輸出加工区の立地、インフラ、現地政府の優遇制度等を評価して進出先を決定した。現在、同じ工業団地内に第二工場も建設し、250名の現地従業員を抱える。ベトナムにおいては、労働力が廉価なため、ともすると労働集約的な製品の生産を指向しがちだが、同社は敢えて、他社がキャッチアップしにくい高度な技術を必要とする製品に特化した。ベトナムでは調達が困難だと思われていた高度な部品も供給できるため、取引先である日系企業からも高く評価されている。

現在、ベトナム工場の製品のうち、ベトナム市場で販売するものは4割、日本に輸出するものは3割、残る3割はタイ、マレーシア、シンガポール、中国、香港等に輸出している。

同社は、今後とも、ベトナムやシンガポールを拠点に、市場が成長しているアジアへの販路開拓を進めていく方針である。



省スペース・省力化機能の端子類